

# 石川県立能楽堂 中期経営目標

## (実施期間 平成30年度～平成34年度)

平成30年3月 策定

### 1 施設の設置目的

本県の能楽や邦楽などの保存及び振興を図ることを目的としています。

### 2 施設の果たすべき役割

本舞台を備えた能楽堂であり、能楽文化の発信拠点として、また、県民の能楽の発表の場や能楽の魅力に触れ体験できる場として能楽愛好者の裾野の拡大を図っています。

### 3 事業内容

#### (1) 能楽の普及・振興

能楽の魅力に触れてもらうため、子供謡・狂言・仕舞教室や観能の夕べ等を開催するほか、能楽に関する講演会を行っています。また、能楽の継承・振興を図るため、宗家や人間国宝などを講師に招き、能楽師養成事業を実施しています。

#### (2) 施設の貸館事業

能楽、邦楽の公演、発表会、稽古の場を提供するため、能舞台や練習舞台などの貸付を行っています。

### 4 現状と課題

#### (1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上について

##### ①施設の利用促進

##### ○能楽の普及・振興

・ 普段、能楽に触れる機会の少ない県民や観光客に、気軽に鑑賞できる機会を提供するため、観能の夕べや能楽講座、初心者向けの能楽体験のほか、若手能楽師を起用した冬の観能の夕べ、他流派競演などの開催に取り組んできたところですが、近年、利用者数が5万数千人にとどまり、伸び悩んでいる状態にあります。

・ 金沢能楽美術館にて、観能の夕べの演目を事前に解説するプレ講座の実施や平成29年度よりチケット販売を開始したほか、金沢能楽美術館の資料を能楽堂において展示するなど、連携の強化に取り組んでいます。今後ともこうした連携を継続していく必要があります。

・ 能楽師の技能向上を図るため、中堅能楽師に実技教習の機会を提供する養成事業を昭和60年から実施しています。今後ともこのような取組みを継続していく必要があります。

・ 能楽堂で開催される公演や自主事業について、ポスター・チラシ等の配布やホームページによる広報を行ってきました。北陸新幹線金沢開業による県外観光客が増加しており、更なる情報発信の充実に努めていく必要があります。

- ・能楽により親しみを持ってもらうため、見学の際には、能舞台に上がって能の世界を体験してもらうほか、DVD視聴機器による説明や子供向けパンフレット「石川県立能楽堂キッズ・ガイド」も備え説明しています。職員による説明スキルの向上と見学に関する広報の充実に取り組む必要があります。

- ・外国人の来館者が増加しており、本県の能楽文化を理解してもらうため、外国人向け能楽体験事業を新たに実施したり、各種催しでは、外国人来場者に番組やあらすじを英文で紹介していますが、今後とも外国人向けの取組を充実する必要があります。

#### ○貸館事業

能楽、邦楽の公演、発表会、稽古の場を提供するため、能舞台や練習舞台などの貸し付けを行っています。能楽愛好者の裾野の拡大に資するため、今後とも本館及び別館の貸館の充実に努めていく必要があります。

#### ②サービス(満足度)向上

- ・自主事業の参加者や来館者を対象に、アンケート調査を実施しており、引き続きアンケート調査を通じて、来館者のニーズの把握に努めながら、事業内容の充実を図っていく必要があります。

- ・初めて来られた方でも分かるように、能楽堂入口前に公演ポスターを掲示するほか、来館者への丁寧な説明や応対に努めてきたところです。また、平成29年度から自動販売機を設置しました。今後とも必要な改善を行い、サービスの向上に努めていく必要があります。

#### (2) 施設運営の効率化について

- ・庁舎の清掃業務について、隣接する美術館と歴史博物館を加えた一括入札の実施など工夫をしてきました。今後とも、経費の節減・効率化に努めていく必要があります。

## 5 中期経営目標

### (1) 中期経営目標

- ① 利用者数を5年間で5%増加させます。
- ② 貸館施設の稼働率を5年間引き続き95%を維持します。
- ③ 利用者アンケートによる満足度を5年間で95%に高めます。
- ④ 利用者1人当たりの一般財源投入額を5年間で5%削減します。

### (2) 測定指標と目標値

測定指標	基準値 (H26～28平均)	中間目標値 (H32)	最終目標値 (H34)
① 利用者数	51,024人	52,500人	53,500人
② 貸館施設の稼働率	97.6%	98.0%	98.6%
③ 利用者アンケートによる満足度	92%	94%	95%
④ 利用者1人あたりの一般財源投入額	464円	453円	441円

## 6 目標達成に向けた具体的な取組内容

### (1) 施設の利用促進及びサービス(満足度)向上に向けた取り組み

#### ① 施設の利用促進

##### ○ 能楽の普及・振興

- ・引き続き能楽界と連携し、他流派との交流や新企画の検討等により利用者増を図るほか、PRの充実等により別館の利用促進に取り組んでいきます。
- ・「観能の夕べ」を夏季と冬季に開催し、能楽愛好者の裾野の拡大や首都圏等からの観光客に能楽鑑賞の機会を提供します。
- ・能楽への理解を深めてもらうため金沢能楽美術館と連携して、能楽師によるプレ講座や能楽堂で資料を展示するなどの事業に取り組みます。
- ・伝統ある能楽の継承と振興を図るため、引き続き、中堅能楽師の養成や小中学生を対象とした謡・狂言・仕舞などの教室を開催し後継者の発掘・育成に取り組みます。
- ・「観能の夕べ」などの広報の充実を図ります。(ホームページの充実、チラシ配布先の拡大、自主事業の紹介パネル展示等)
- ・ホームページ等広報の充実や職員による説明スキル向上等を通じて、団体見学(県政学習バス、小中学校、旅行会社)や一般見学者(県外、外国人)の更なる受け入れに努めます。

## ○貸館事業

貸館事業の充実を図るため、引き続き能楽界と連携して新しい企画にも取り組み、能楽の公演回数を確保していくほか、PR活動を充実し、別館の利用促進に取り組んでいきます。

## ②サービス(満足度)向上

- ・各種自主事業等について、アンケートを実施するなど、利用者ニーズの把握に努め、自主事業や施設運営の充実に努めます。
- ・初めて来館する見学者の受け入れなどに対応する職員のスキル向上に努めるなど改善に努めます。

## (2) 施設運営の効率化に向けた取り組み

- ・業務委託契約内容の見直しを行うなど、今後とも引き続き経費の節減、効率化に努めます。

参考資料(施設の利用状況など)

(1)利用指標(利用人数、稼働率などの状況) (単位:人、稼働率:%)

指標	H26	H27	H28
入館者数	48,107	50,524	54,532
本館入館者数	42,868	44,033	47,536
別館入館者数	5,149	6,491	6,996
稼働率	96.8	96.8	99.3
本舞台稼働率	53.4	58.1	70.5
別館稼働率	70.1	75.6	76.9
自主事業参加人数	4,585	4,907	4,279
講演会・能楽鑑賞会	857	457	349
謡曲講座	66	70	72
子供謡・狂言・仕舞教室	39	40	47
能楽師養成事業	42	39	39
	(シテ、ワキ、囃子方)	(シテ、ワキ、狂言方)	(シテ、ワキ、囃子方)
観能の夕べ	3,581	4,301	3,772

(2)利用者アンケート指標(利用者サービス、施設の維持管理) (単位:%)

項目	H26	H27	H28
良い	47	47	48
概ね良い	45	45	43
計	92	92	91
やや悪い	4	4	6
悪い	3	3	3

(2)使用許可等の状況 (単位:件)

項目	H26	H27	H28
貸館件数	954	977	936
本館	628	623	609
別館	326	354	327

## (3) 使用料の収入実績

(単位:千円)

項目	H26	H27	H28
施設使用料 (本館)	3,858	4,023	3,976
施設使用料 (別館)	1,805	1,886	1,712
装束使用料等	116	187	202
計	5,779	6,096	5,889

## 2 収支の状況

(単位:千円)

		H26決算	H27決算	H28決算
歳出	管理運営費	30,293	29,584	26,157
	職員費	15,420	18,634	17,086
	普及事業費	556	601	601
	能装束等整備費	380	380	380
	計	46,649	49,199	44,224
歳入	特定財源	5,797	6,104	5,893
	一般財源	40,852	43,095	38,331
	計	46,649	49,199	44,224

## 3 利用者1人あたりの一般財源投入額

(単位:千円)

		H26	H27	H28
一般財源投入額	①	40,852	43,095	38,331
職員費を除いた額	①'	25,432	24,461	21,245
利用者数	②	48,017 人	50,524 人	54,532 人
利用者1人あたりの一般財源投入額	①÷②	851 円	853 円	703 円
職員費除き	①'÷②	530 円	484 円	390 円